

令和6年4月23日

富士見市長 星野 光弘 様

富士見市総合計画審議会
会 長 鏡 諭

富士見市第6次基本構想・第1期基本計画等について（答申）

令和4年1月18日付け富政第33号で諮問のありました富士見市第6次基本構想第1期基本計画等の検証についての調査及び審議について、本審議会では慎重に審議した結果、別添のとおりとしましたので答申します。

なお、本審議会や地域説明会などで寄せられた多くの市民の意見を踏まえ、理想の“未来”である「自らの歩みで充実した日々を送ることができる未来」の実現に向け、今後も市民とともに取り組まれるよう要望します。

**富士見市第6次基本構想・第1期基本計画等の
検証について**

(答 申)

令和6年4月23日

富士見市総合計画等審議会

I. 答申にあたり

富士見市では、令和3（2021）年度から、「富士見市第6次基本構想・第1期基本計画及び第2期富士見市キラリと輝く創生総合戦略」（以下「第1期基本計画等」という。）をスタートさせた。

令和3（2021）年から令和22（2040）年までのまちづくりの指針となる富士見市第6次基本構想（以下「第6次基本構想」という。）においては、「自らの歩みで充実した日々を送ることができる未来」を、20年後の理想の“未来”として掲げ、「実りある暮らし」、「充たされたつながり」、「恵まれた生活環境」、「成長の継続」の4つの構成要素のもと、『みんな笑顔☆ふじみ』を合言葉に市民が一丸となって歩みを進めていくこととした。

この第6次基本構想の実現に向けては、富士見市第6次基本構想・第1期基本計画（以下「第1期基本計画」という。）を策定して、行政活動を30の分野に分け、取り組むべき施策を定めた行政経営の指針とした。

また、第1期基本計画の策定にあたっては、少子高齢化への対応や人口減少の克服を目的とする第2期富士見市キラリと輝く創生総合戦略（以下「第2期総合戦略」という。）も一体的に策定を行った。

これら第1期基本計画等を、連動性を高めながら一体的に運用していくことで、理想の“未来”を実現するべく、様々な取組を進めている。

これらの状況を受けて富士見市総合計画等審議会は、第1期基本計画等の検証を通じ、取組がさらに推進されるように、これまで審議を重ねてきた。

このたび、令和5年度をもってその計画期間の中間年を終えることから、当審議会では、総合計画等の取組における成果や課題を踏まえた総括を行った。

その内容を、次のとおり答申としてとりまとめたので、今後の施策に活かしていただき、引き続き魅力あふれるまちづくりにつなげていただくことを期待するものである。

令和6（2024）年4月23日
富士見市総合計画等審議会
会長 鏡 諭

II. 審議結果

第1期基本計画等については、その進捗状況を測るための指標として、KPI や KSF 等の数値目標を設定している。

まず、各取組の活動指標である KSF については、この間、新型コロナウイルス感染症の感染拡大といった影響を受けながらも、多くの分野で順調に進捗していることが確認できた。この部分については、新型コロナウイルスというこれまで経験したことのないウイルスを目の前にして、困難な状況下にあっても、対応や手法を工夫するなど、臨機応変に事業を進めてきた行政における一連の取組を評価するものである。

次に、各基本施策において取組の成果を測るために設定した指標である KPI については、こちらも多くの基本施策で数値の改善や向上が見られた。また、中には、当初の計画を上回る速さで成果を上げ、既に掲げた目標値を達成している基本施策も複数確認することができた。

このように、一定の成果が確認できていることについては評価できる一方で、遅れが生じている分野もいくつか見受けられた。この点については、この間、社会情勢やニーズが変化したことなどから、目的と手段さらに必要性を見直すことが肝要との指摘のある取組があった。このため、遅れている要因分析等については精査を行い、今後も適切に事業を執行していく必要があるものとする。

以上のことから、第1期基本計画等の残りの2年間（令和6～7年度）については、掲げた数値目標に対して、最終的に十分な効果が得られるよう、引き続き行政評価等を通じて検証を行うとともに、修正点を明確化しながら計画の推進に努めることを求めるものである。なお、事業実施にあたっては、昨今の社会情勢の急速な変化を的確に捉え、その変化に適切に対応していくこと、加えて、将来的な展望を描くだけでなく足元の状況や課題の把握に努め、市民や市内事業者等に寄り添うよう図られたい。

また、第2期基本計画等の策定に向けては、人口減少が現実のものとなり、これまでの拡大路線を前提とした行政経営からの転換を強いられることが予想される。このため、これまでの審議や行政評価の過程で明らかとなった課題等を踏まえるとともに、時代に合った自治体の役割を再度見直し、民間団体の協力も得ながら多角的な視点をもって施策の選択と集中を進め、富士見市の持続的な発展に寄与するものとなるように策定を進めていかれることを望むものである。

Ⅲ. 審議経過

回	開催日程	備考
第1回	令和4年1月18日（火曜日）	
第2回	令和4年4月19日（火曜日）	
第3回	令和5年3月16日（木曜日）	
第4回	令和6年3月22日（金曜日）	
第5回	令和6年3月28日（木曜日）	
第6回	令和6年4月16日（火曜日）	

Ⅳ. 審議会委員

役職	氏名	委員構成	委嘱期間
会長	鏡 諭 (○)	法政大学大学院（学識経験者）	令和4年1月18日～
副会長	今井 寛 (○)	前総合計画審議会会長	令和4年1月18日～
委員	秋元 玲子 (○)	富士見市商工会	令和4年1月18日～
委員	朝賀 康義 (○)	公募	令和4年1月18日～
委員	小林 久美子	富士見市民生委員児童委員 連絡協議会	令和4年1月18日～ 令和5年3月15日
委員	齊藤 宏 (○)	富士見市校長会	令和4年1月18日～
委員	志摩 勇 (○)	弁護士	令和4年1月18日～
委員	島田 晃弘 (○)	川口信用金庫	令和4年4月 1日～
委員	鈴木 卓二 (○)	筑波ダイカスト工業株式会社	令和4年1月18日～
委員	関谷 沢果 (○)	富士見市シティプロモーション 戦略アドバイザー	令和5年3月16日～
委員	高橋 くみ子(○)	富士見市民生委員児童委員 連絡協議会	令和5年3月16日～
委員	田屋 欽司	川口信用金庫	令和4年1月18日～ 令和4年3月31日
委員	檜木 佳子 (○)	公募	令和4年1月18日～
委員	根岸 由紀子(○)	女子栄養大学（学識経験者）	令和4年1月18日～
委員	星野 弘昭 (○)	富士見市農業青年会議所	令和4年1月18日～
委員	山本 昇一 (○)	富士見市町会長連合会	令和4年1月18日～
委員	吉原 智博 (○)	富士見市PTA連合会	令和4年1月18日～

※委員以下五十音順、敬称略

※令和6年4月現在の委員については氏名欄に（○）を記載しています

V. 参考資料

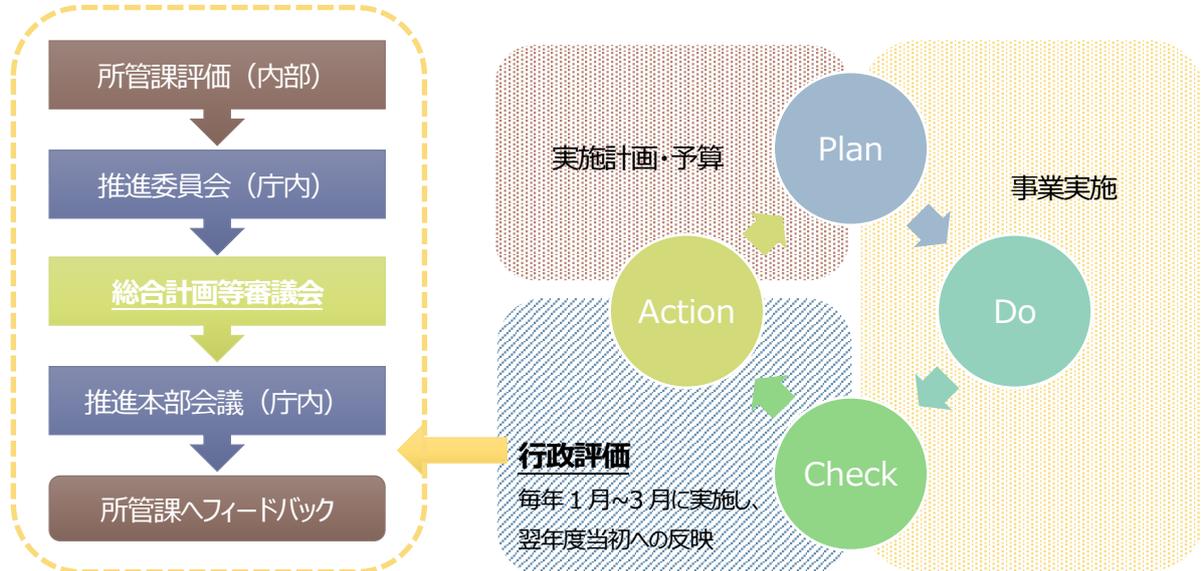
1. 令和3年度行政評価の総括について（第2回審議会資料）
2. 令和4年度行政評価の総括について（第3回審議会資料）
3. 令和5年度行政評価の総括について（第4回審議会資料）

令和3年度行政評価の総括について

1 趣 旨

- 令和3年4月にスタートした第6次基本構想・第1期基本計画、第2期キラリと輝く創生総合戦略（以下「基本計画等」という。）を着実に推進するため、毎年度行政評価を実施。

【PDCA サイクル】



- ・基本計画等の策定段階から、ロジックモデル（目指す状態とそのための手段を整理）を作成し、成果指標（数値目標・KPI・KSF）を設定することで、その進捗状況を適時確認できるよう設計。

2 評価方法

- これまでの取組を踏まえ、①「これまで（R3年度）の成果及び効果」、②「課題及び次年度の方方向性」の2点を明らかにすることを目的に実施。

【評価対象：基本施策 131本（基本計画 119本、総合戦略 12本）】

- 評価フロー：所管課による自己評価・検証→推進委員会及び総合計画等審議会にて審議
- 基本施策の達成のため実施する取組の進捗状況を3段階評価し、その合計点により基本施策を5段階で評価。

【取組の評価区分】 ※具体的な取組の進捗状況により、取組ごとに3段階（A～C）評価

- A： 予定を上回り、順調に進捗している。
- B： 予定のとおりに進捗している。
- C： 進捗に遅れが出ている。

【基本施策の評価区分】 ※取組評価の合計点により、基本施策を5段階（5～1）評価

- 5： 大きく進展している。
- 4： 順調である。
- 3： 概ね順調である。
- 2： 多少遅れが出ている。
- 1： 大幅に遅れが出ている。

- 評価「2」及び「1」の22施策のうち、委員投票により審議対象施策（5施策）として決定。

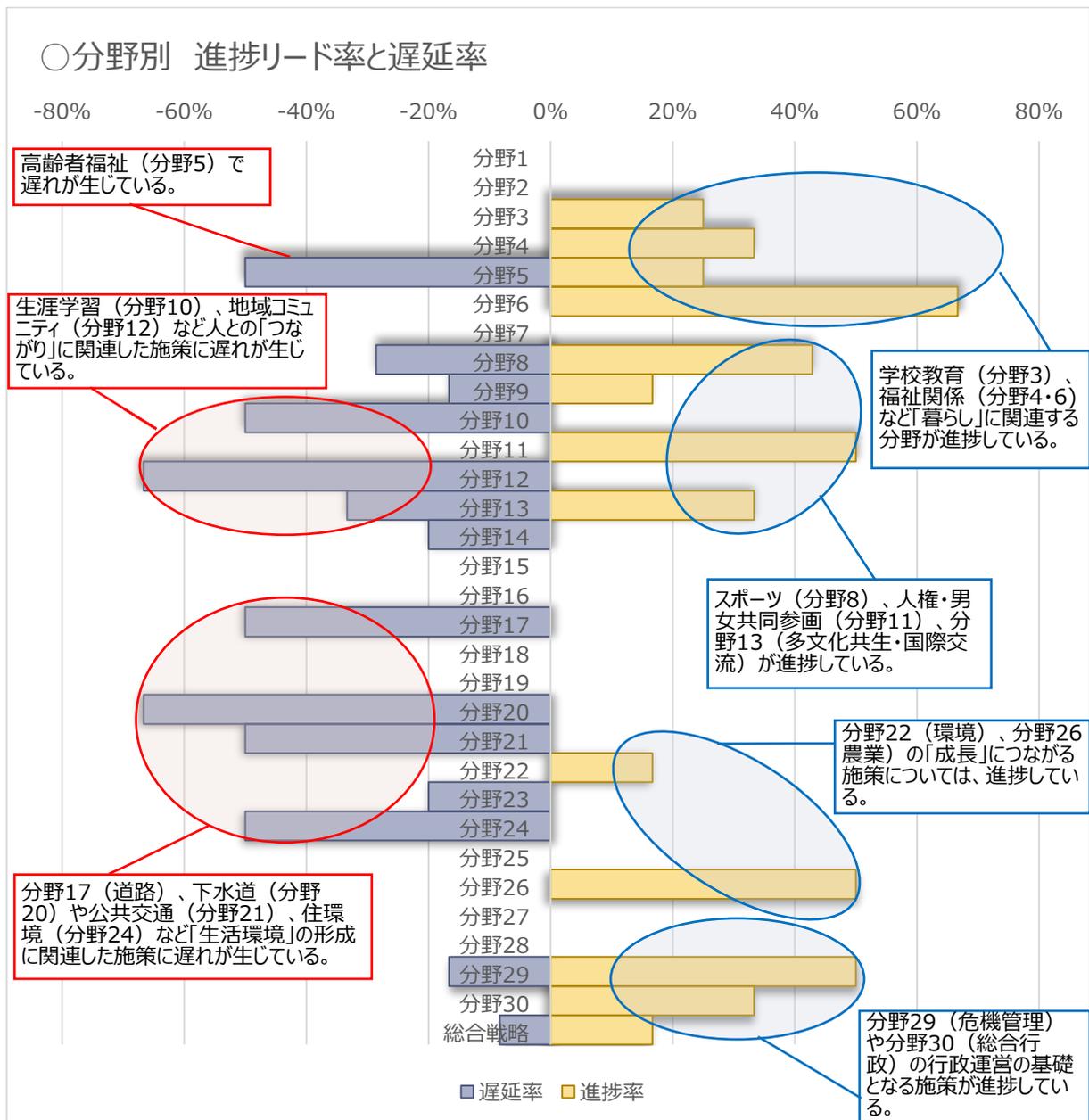
3 評価結果

○基本施策 評価結果

分野	タイトル	評価結果					総計	遅延率 ※1	進捗リード率 ※2
		1	2	3	4	5			
分野 1	子ども・子育て支援			4			4	0%	0%
分野 2	子ども・若者支援			2			2	0%	0%
分野 3	学校教育			3	1		4	0%	25%
分野 4	地域福祉			2	1		3	0%	33%
分野 5	高齢者福祉	1	3	2	1	1	8	-50%	25%
分野 6	障がい福祉			2	3	1	6	0%	67%
分野 7	健康づくり			6			6	0%	0%
分野 8	スポーツ		2	2	3		7	-29%	43%
分野 9	文化芸術・文化財		1	4	1		6	-17%	17%
分野 10	生涯学習	1	1	2			4	-50%	0%
分野 11	人権・男女共同参画			1		1	2	0%	50%
分野 12	地域コミュニティ		2	1			3	-67%	0%
分野 13	多文化共生・国際交流		1	1	1		3	-33%	33%
分野 14	防犯・交通安全		1	4			5	-20%	0%
分野 15	市民相談・消費生活			2			2	0%	0%
分野 16	土地利用			3			3	0%	0%
分野 17	道路		1	1			2	-50%	0%
分野 18	治水			2			2	0%	0%
分野 19	水道			4			4	0%	0%
分野 20	下水道		2	1			3	-67%	0%
分野 21	公共交通		1	1			2	-50%	0%
分野 22	環境			5	1		6	0%	17%
分野 23	公園・緑		1	4			5	-20%	0%
分野 24	住環境	1	1	2			4	-50%	0%
分野 25	商工			6			6	0%	0%
分野 26	農業			2	1	1	4	0%	50%
分野 27	就労			2			2	0%	0%
分野 28	シティプロモーション			2			2	0%	0%
分野 29	危機管理	1		2	3		6	-17%	50%
分野 30	総合行政			2	1		3	0%	33%
総合戦略		1		9	2		12	-8%	17%
総計		5	17	86	19	4	131	-17%	18%

※1 遅延率 : 分野ごとの基本施策中、進捗の遅れがある施策の割合 (評価結果 1 又は 2)

※2 進捗リード率 : 分野ごとの基本施策中、進捗が予定より進んでいる割合 (評価結果が 4 又は 5)



【取組評価結果の概要】

※取組評価とは、基本施策の達成のため実施する取組（基本施策に紐づく取組）を3段階評価（A～C）したものを。

<取組評価結果の内容>

- 評価が「A」となった取組の多くは、KSFの数値が想定以上に向上したものとなった。（支援件数の増加、啓発回数の増加、福祉施設などの建設が決定したものなど）
- 評価が「C」となった取組の多くは、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業実施ができなかったもの、現時点で事業着手できていないものとなっている。
- 一方、コロナ禍においても、オンラインの活用による事業実施など、新たな生活様式への対応により、当初想定していた事業成果を達成したとして評価を「B」としている取組もあった。

【基本施策評価の概要】

※基本施策評価とは、実施する取組（基本施策に紐づく取組）の評価を基に、基本施策の進捗を5段階評価（5～1）するもの。

<基本施策評価結果の内容>

○全体としては、取組評価の78.2%が評価「B」となったため、基本施策の評価結果も評価「3」（概ね順調である）に集中している。

○「暮らし」関連

- ・学校教育（分野3）、地域福祉（分野4）、障がい福祉（分野6）は、教育相談体制の充実や社会福祉協議会の体制強化、障がい福祉サービスの充実などから評価が高くなっている。
- ・高齢者福祉（分野5）は、新型コロナウイルス感染症の影響により、社会（地域）参加機会の減少から評価が低くなっている。

○「つながり」関連

- ・生涯学習（分野10）、地域コミュニティ（分野12）は、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業中止となったことから評価が低くなっている。
- ・スポーツ（分野8）、人権・男女共同参画（分野11）、分野13（多文化共生・国際交流）は、トップレベルの試合（レスリングやハンドボール等）の招致、人権啓発の促進やセルビア共和国との国際交流活動により評価が高くなっている。

○「生活環境」関連

- ・道路（分野17）、分野20（下水道）、分野21（公共交通）、分野24（住環境）は、幹線道路整備、地域公共交通の検討や空き地対策などに遅れが生じている。また、内水対策事業について、継続検討となった事業があり評価が低くなっている。
- ・分野29（危機管理）は、新型コロナウイルス感染症の影響により、「共助の充実」に取組めなかったものの、防災リーダーの養成や家具転倒防止の推進による「自助の充実」、備蓄品の充実や民間との連携協定など「公助の充実」が進んだことにより評価が高くなっている。

○「成長」関連

- ・環境（分野22）、農業（分野26）については、公共施設の壁面緑化など温室効果ガス抑制への取組が進んだこと、農地の集積、市民農園の利用者が増えたことなどにより評価が高くなっている。

○「総合行政」

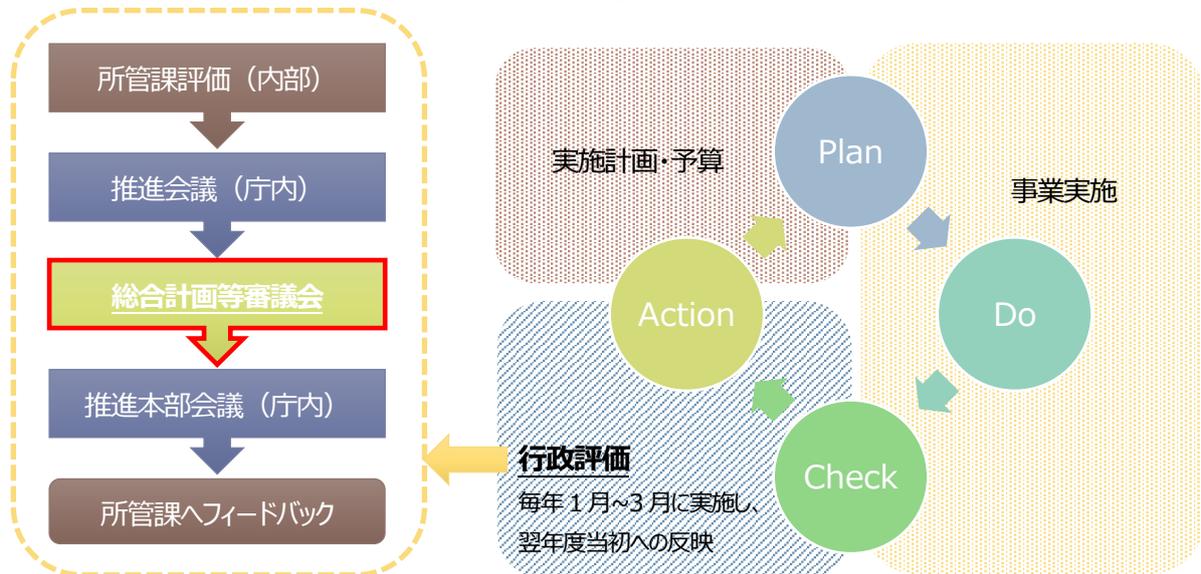
- ・総合行政（分野30）は、新たに(株)NTT 東日本と連携し GIGA スクール構想の推進や DX 推進計画を策定したことなど、民間活力の活用が進んだことにより評価が高くなっている。

令和4年度行政評価の総括について

1 趣 旨

- 令和3年4月にスタートした第6次基本構想・第1期基本計画、第2期キラと輝く創生総合戦略（以下「基本計画等」という。）を着実に推進するため、毎年度行政評価を実施。

【PDCA サイクル】



- ・基本計画等の策定段階から、ロジックモデル（目指す状態とそのため的手段を整理）を作成し、成果指標（数値目標・KPI・KSF※）を設定することで、その進捗状況を適時確認できるよう設計。

※KPI：数値目標達成のために重要となる施策の目標値 KSF：KPI 達成のために重要となる取組の目標値

2 評価方法

- R4年度の取組を踏まえ、①「これまで（R4年度）の成果及び効果」、②「課題及び次年度の方向性」の2点を明らかにすることを目的に実施。

【評価対象：基本施策 131本（基本計画 119本、総合戦略 12本）】※詳細 別冊行政評価シート参照

- 評価フロー：所管課による自己評価・検証⇒推進会議及び総合計画等審議会にて審議
- 基本施策の達成のため実施する取組の進捗状況を3段階評価し、その合計点により基本施策を5段階で評価。

【取組の評価区分】 ※具体的な取組の進捗状況により、取組ごとに3段階（A～C）評価

- A： 予定を上回り、順調に進捗している。
- B： 予定のとおりに進捗している。
- C： 進捗に遅れが出ている。

【基本施策の評価区分】 ※取組評価の合計点により、基本施策を5段階（5～1）評価

- 5： 大きく進展している。
- 4： 順調である。
- 3： 概ね順調である。
- 2： 多少遅れが出ている。
- 1： 大幅に遅れが出ている。

3 評価結果（分野別、基本施策ごと）

分野	分野名	評価区分※1					総計	R4 分野別 平均評価点	R3 分野別 平均評価
		1	2	3	4	5			
分野 1	子ども・子育て支援			2	2		4	3.5	3.0
分野 2	子ども・若者支援				2		2	4.0	3.0
分野 3	学校教育			3	1		4	3.3	3.3
分野 4	地域福祉			1	1	1	3	4.0	3.3
分野 5	高齢者福祉			6	1	1	8	3.4	2.8
分野 6	障がい福祉			1	4	1	6	4.0	3.8
分野 7	健康づくり			4	2		6	3.3	3.0
分野 8	スポーツ			1	5	1	7	4.0	3.1
分野 9	文化芸術・文化財			3	3		6	3.5	3.0
分野 10	生涯学習			4			4	3.0	2.3
分野 11	人権・男女共同参画			2			2	3.0	4.0
分野 12	地域コミュニティ		1	2			3	2.7	2.3
分野 13	多文化共生・国際交流			2	1		3	3.3	3.0
分野 14	防犯・交通安全			5			5	3.0	2.8
分野 15	市民相談・消費生活			2			2	3.0	3.0
分野 16	土地利用			3			3	3.0	3.0
分野 17	道路		1	1			2	2.5	2.5
分野 18	治水			2			2	3.0	3.0
分野 19	水道			4			4	3.0	3.0
分野 20	下水道		2	1			3	2.3	2.3
分野 21	公共交通			2			2	3.0	2.5
分野 22	環境			4	1	1	6	3.5	3.2
分野 23	公園・緑		1	3	1		5	3.0	2.8
分野 24	住環境			3	1		4	3.3	2.3
分野 25	商工			5		1	6	3.3	3.0
分野 26	農業			3	1		4	3.3	3.8
分野 27	就労			1	1		2	3.5	3.0
分野 28	シティプロモーション			1	1		2	3.5	3.0
分野 29	危機管理			2	2	2	6	4.0	3.2
分野 30	総合行政			3			3	3.0	3.3
総合戦略			2	8	2		12	3.0	3.0
総 計		0	7	84	32	8	131	3.3	3.0

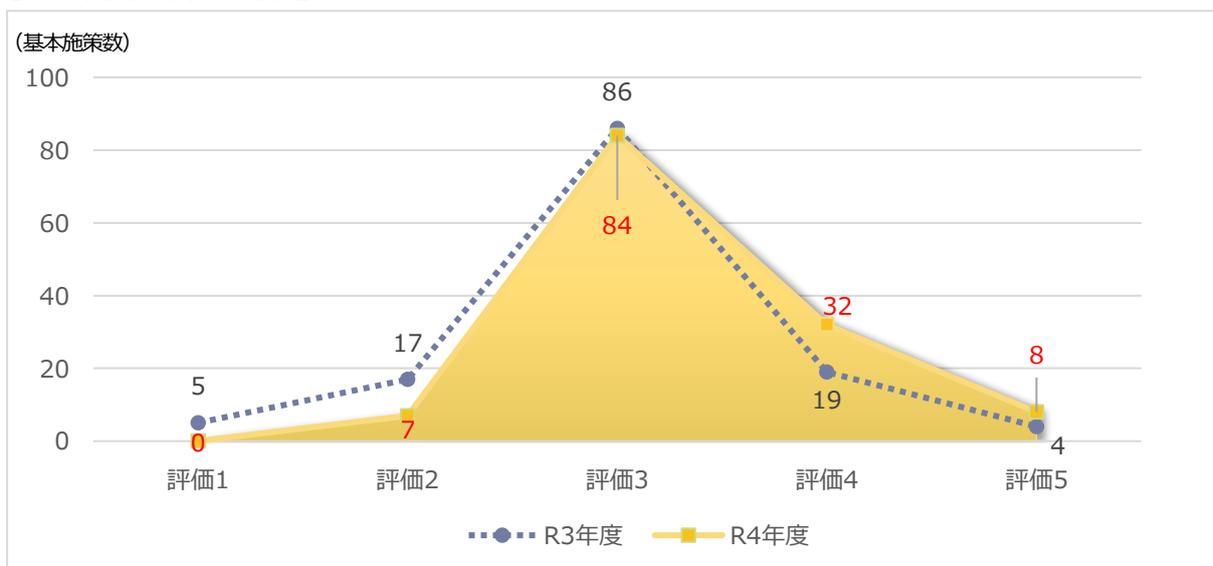
※1 【評価区分】(再掲)

5：大きく進展している。 4：順調である。 3：概ね順調である。 2：多少遅れが出ている。 1：大幅に遅れが出ている。

※2【「実りある暮らし」、「充たされたつながり」、「恵まれた生活環境」、「成長の継続」】

第6次基本構想に定める理想の“未来”「充実した日々」を構成する要素として整理したもの。計画冊子 P9 参照

【R3 年度評価との比較】



年度	評価1	評価2	評価3	評価4	評価5	平均評価点
R4年度	0	7	84	32	8	3.3
R3年度	5	17	86	19	4	3.0

【全体概要】

- ・全体的な評価結果は R3 年度（昨年度）より順調となった。（全体平均評価点 R3 年度 3.0⇒R4 年度 3.3）
- ・R4 年度は、R3 年度の評価低迷の要因となっていた、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されたことにより、予定通りの事業展開が可能となったことから、参加者数や開催回数などを指標としている数値が向上し、全体として評価が改善した取組が多い結果となっている。

【評価が高かった分野】

- ・分野別平均評価点が 4.0 以上となったものが 5 分野（分野 2：子ども・若者支援、分野 4：地域福祉、分野 6：障がい福祉、分野 8：スポーツ、分野 29：危機管理）となっている。

○評価が高かった分野の進捗理由

分野 2：子ども・若者支援

中高生の学習支援の利用者や子ども・若者の居場所（子ども食堂、学習支援など）の活動回数などが着実に増えているほか、学び直し相談などの相談者も増加傾向にあるため。

分野 4：地域福祉

コロナ禍の影響もあるが、生活サポートセンター☆ふじみの活動や、一時的な収入減少者に支給する住居確保給付金の支給件数が増加したこと、ボランティアへの個人登録が進んだため。

分野 6：障がい福祉

グループホームなどの施設整備が進んだことや、障がい者の就労相談件数が目標件数を超えたため。また、あいサポートイベントなどの参加が増加するなど、障がい者との交流機会を増やすことができたため。

分野 8：スポーツ

新型コロナウイルス感染症の行動制限緩和による事業実施に伴い、指標としていた「運動公園等の利用者数」や、「大会等の出場者に対し奨励金交付数」などについて、目標値を超え、大きく伸ばすことができたため。

分野 29：危機管理

地域の防災リーダーの養成が進んだことや、災害用備蓄品の改善（液体ミルクの導入）、防災訓練や国民保護訓練の実施など、自助・共助・公助の観点など、全体的に進捗したため。

分野	分野名	R4 分野別平均評価点	R3 分野別平均評価点
分野 2	子ども・若者支援	4.0	3.0
分野 4	地域福祉	4.0	3.3
分野 6	障がい福祉	4.0	3.8
分野 8	スポーツ	4.0	3.1
分野 29	危機管理	4.0	3.2

【評価が低かった分野】

・分野別平均評価点が 3.0 を下回ったものが 3 分野（分野 12：地域コミュニティ、分野 17：道路、分野：20 下水道）となっている。また、この 3 分野については、2 年連続で分野別平均評価点が 3.0 を下回っている状況となっている。

○評価が低かった分野の遅延理由

分野 12：地域コミュニティ

地域まちづくり協議会の設立支援について、町会活動が完全に復活していないことなどから、情報収集にとどまったため。

分野 17：道路

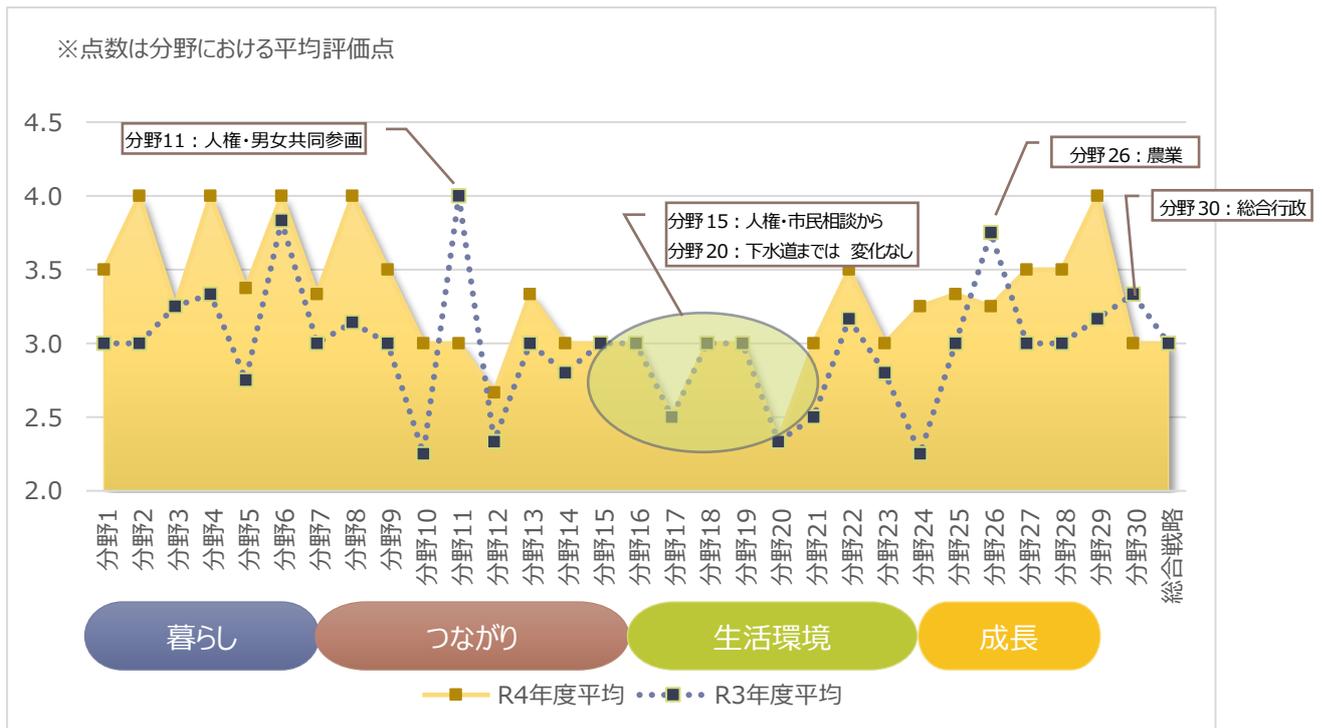
幹線道路の整備について、地権者との交渉に時間を要し、事業進捗が行われていなかったため。

分野 20：下水道

公共下水道の普及に向けた管渠整備について、既存管渠の老朽化や耐震化の対策件数が増加し、その対応を行ったことから、遅れが生じているため。

分野	分野名	R4 分野別平均評価点	R3 分野別平均評価点
分野 12	地域コミュニティ	2.7	2.3
分野 17	道路	2.5	2.5
分野 20	下水道	2.3	2.3

4 評価結果（分野別の R4 年度評価結果と R3 年度評価結果との比較）



- ・分野別に見ると、R3 年度結果を下回る分野（分野 11：人権・男女共同参画、分野 26：農業、分野 30：総合行政）はあるものの（※下回った結果は、評価 3 以上を維持している。）、全体の 66%にあたる 20 分野が、R3 年度より結果が向上した。
- ・分野 15：市民相談・消費生活から分野 20：下水道までは R3 年度結果と同様の結果となっている。
- ・主に「暮らし」・「つながり」・「成長」につながる分野において、改善傾向が強く、「生活環境」につながる分野においては R3 年度と同様の結果となっている。

【R3 年度より大きく評価点が上がった分野】 ※R3 年度結果より 0.5 ポイント以上改善

○R3 年度より大きく評価点が上がった分野の理由

分野 1：子ども・子育て支援

放課後児童クラブの整備が進み、待機児童「0」を継続できたことや、特色ある幼児教育が市内すべての幼稚園で行われるなどの進捗が図られたため。

分野 4：地域福祉（再掲）

コロナ禍の影響もあるが、生活サポートセンター☆ふじみの活動や、一時的な収入減少者に支給する住居確保給付金の支給件数が増加したこと、ボランティアへの個人登録が進んだため。

分野 5：高齢者福祉

新型コロナウイルス感染症の行動制限緩和による事業実施に伴い、高齢者学級の参加者数が伸びるなどしたほか、施設整備や介護人材の確保の取組が進んだため。

分野 8：スポーツ（再掲）

新型コロナウイルス感染症の行動制限緩和による事業実施に伴い、指標としていた「運動公園等の利用者数」や、「大会等の出場者に対し奨励金交付数」などについて、目標値を超え、大きく伸ばすことができたため。

分野 9：文化芸術・文化財

新型コロナウイルス感染症の行動制限緩和による事業実施に伴い、各種文化祭が実施されたことや、市民の文化芸術活動に対する支援が行えたため。

分野 10：生涯学習

新型コロナウイルス感染症の行動制限緩和による事業実施に伴い、取組実績を増やせたことで R3 年度より改善したほか、施設整備や介護人材の確保の取組が進んだため。

分野 21：公共交通

R3 年度は公共交通の現状に係る検証作業が進まなかったが、今年度はデマンドタクシーの検証作業や、バスのダイヤ改正を実施できたため。また、放置自転車の数が目標値を超え、R3 年度よりも減少したため。

分野 27：就労

働き方改革に関する取組に対する支援事業所数が、目標値を超え、R3 年度より増加したほか、中小企業チャレンジ支援事業のテレワーク整備環境支援も活用されたため。

分野 28：シティプロモーション

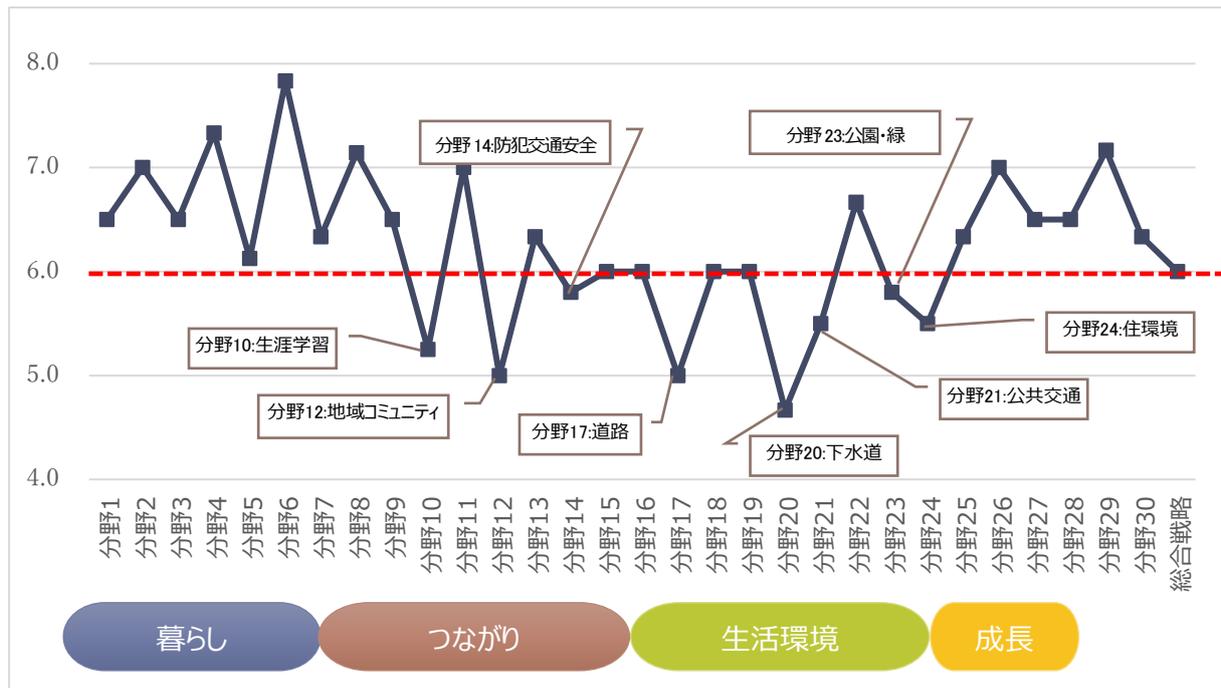
情報発信において、ららぽーと映画館でのシネマアドバタイジングや東武東上線電車広告の実施、市制施行 50 周年記念 PR 冊子の作成などに取り組み、市の認知度が着実に向上したため。

分野 29：危機管理（再掲）

地域の防災リーダーの養成が進んだことや、災害用備蓄品の改善（液体ミルクの導入）、防災訓練や国民保護訓練の実施など、自助・共助・公助の観点など、全体的に進捗したため。

分野	分野名	R4 分野別平均評価点	R3 分野別平均評価点	差
分野 1	子ども・子育て支援	3.5	3.0	0.5
分野 4	地域福祉	4.0	3.3	0.7
分野 5	高齢者福祉	3.4	2.8	0.6
分野 8	スポーツ	4.0	3.1	0.9
分野 9	文化芸術・文化財	3.5	3.0	0.5
分野 10	生涯学習	3.0	2.3	0.8
分野 21	公共交通	3.0	2.5	0.5
分野 27	就労	3.5	3.0	0.5
分野 28	シティプロモーション	3.5	3.0	0.5
分野 29	危機管理	4.0	3.2	0.8

参考【各分野の2年間の平均評価点の合計】



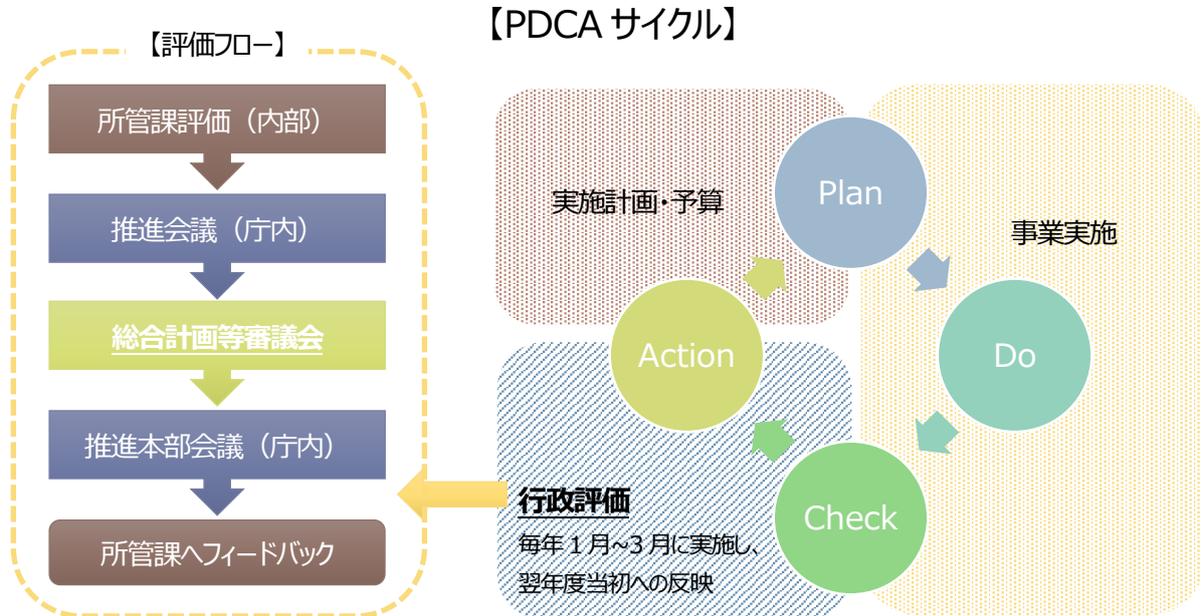
- ・2年間の平均評価点はおおむね6.0（平均3.0×2年間）を超えていた場合、おおむね順調に進捗しているものと推測できる。
- ・2年間の合計が6.0を下回ったのは、8分野（分野10：生涯学習、分野12：地域コミュニティ、分野14：防犯・交通安全、分野17：道路、分野20：下水道、分野21：公共交通、分野23：公園・緑、分野24：住環境）となっている。
- ・主に「暮らし」、「成長」につながる分野では進捗しているものの、「つながり」、「生活環境」につながる分野において遅れが生じている傾向となっている。

分野	分野名	R4 分野別平均評価点	R3 分野別平均評価点	合計
分野10	生涯学習	3.0	2.3	5.3
分野12	地域コミュニティ	2.7	2.3	5.0
分野14	防犯・交通安全	3.0	2.8	5.8
分野17	道路	2.5	2.5	5.0
分野20	下水道	2.3	2.3	4.7
分野21	公共交通	3.0	2.5	5.5
分野23	公園・緑	3.0	2.8	5.8
分野24	住環境	3.3	2.3	5.5

令和5年度行政評価の総括について

1 趣 旨

- 令和3年4月にスタートした第6次基本構想・第1期基本計画、第2期キラと輝く創生総合戦略（以下「基本計画等」という。）を着実に推進するため、毎年度行政評価を実施。



- ・基本計画等の策定段階から、ロジックモデル（目指す状態とそのための手段を整理）を作成し、成果指標（数値目標・KPI・KSF）を設定することで、その進捗状況を適時確認できるよう設計。

2 評価方法

- ①「令和5年度の評価（単年度評価）」、②「令和3～5年度の評価（複数年評価）」を実施。【評価対象：基本施策 131 本（基本計画 119 本、総合戦略 12 本）】
- 評価フロー：所管課評価⇒推進会議⇒（現在）**総合計画等審議会**
- 基本施策の達成のため実施する取組の進捗状況を3段階評価し、その合計点により基本施策を5段階で評価。

【取組の評価区分】 ※具体的な取組の進捗状況により、取組ごとに3段階（A～C）評価

- A： 予定を上回り、順調に進捗している。
- B： 予定のとおりに進捗している。
- C： 進捗に遅れが出ている。

【基本施策の評価区分】 ※取組評価の合計点により、基本施策を5段階（5～1）評価

- 5： 大きく進展している。
- 4： 順調である。
- 3： 概ね順調である。
- 2： 多少遅れが出ている。
- 1： 大幅に遅れが出ている。

3 令和5年度の評価（単年度評価）

【1】 令和5年度の評価結果一覧（分野別）

分野	分野名	評価区分 ※1					総計	令和5年度	令和4年度	令和3年度
		1	2	3	4	5		分野別 平均評価点	分野別 平均評価点	分野別 平均評価点
分野1	子ども・子育て支援			3	1		4	3.3	3.5	3.0
分野2	子ども・若者支援			1		1	2	4.0	4.0	3.0
分野3	学校教育			4			4	3.0	3.3	3.3
分野4	地域福祉			1	1	1	3	4.0	4.0	3.3
分野5	高齢者福祉			5	3		8	3.4	3.4	2.8
分野6	障がい福祉			2	3	1	6	3.8	4.0	3.8
分野7	健康づくり			2	4		6	3.7	3.3	3.0
分野8	スポーツ				5	2	7	4.3	4.0	3.1
分野9	文化芸術・文化財			2	3	1	6	3.8	3.5	3.0
分野10	生涯学習			3	1		4	3.3	3.0	2.3
分野11	人権・男女共同参画			1	1		2	3.5	3.0	4.0
分野12	地域コミュニティ			3			3	3.0	2.7	2.3
分野13	多文化共生・国際交流			1	2		3	3.7	3.3	3.0
分野14	防犯・交通安全			5			5	3.0	3.0	2.8
分野15	市民相談・消費生活			2			2	3.0	3.0	3.0
分野16	土地利用			3			3	3.0	3.0	3.0
分野17	道路	1			1		2	2.5	2.5	2.5
分野18	治水			2			2	3.0	3.0	3.0
分野19	水道			4			4	3.0	3.0	3.0
分野20	下水道		2	1			3	2.3	2.3	2.3
分野21	公共交通			1	1		2	3.5	3.0	2.5
分野22	環境			2	3	1	6	3.8	3.5	3.2
分野23	公園・緑		1	2	2		5	3.2	3.0	2.8
分野24	住環境			4			4	3.0	3.3	2.3
分野25	商工			5	1		6	3.2	3.3	3.0
分野26	農業			1	3		4	3.8	3.3	3.8
分野27	就労			2			2	3.0	3.5	3.0
分野28	シティプロモーション				2		2	4.0	3.5	3.0
分野29	危機管理			2	1	3	6	4.2	4.0	3.2
分野30	総合行政			2	1		3	3.3	3.0	3.3
総合戦略		※2	1	10	1		12	3.0	3.0	3.0
総計		1	4	76	40	10	131	3.4	3.3	3.0

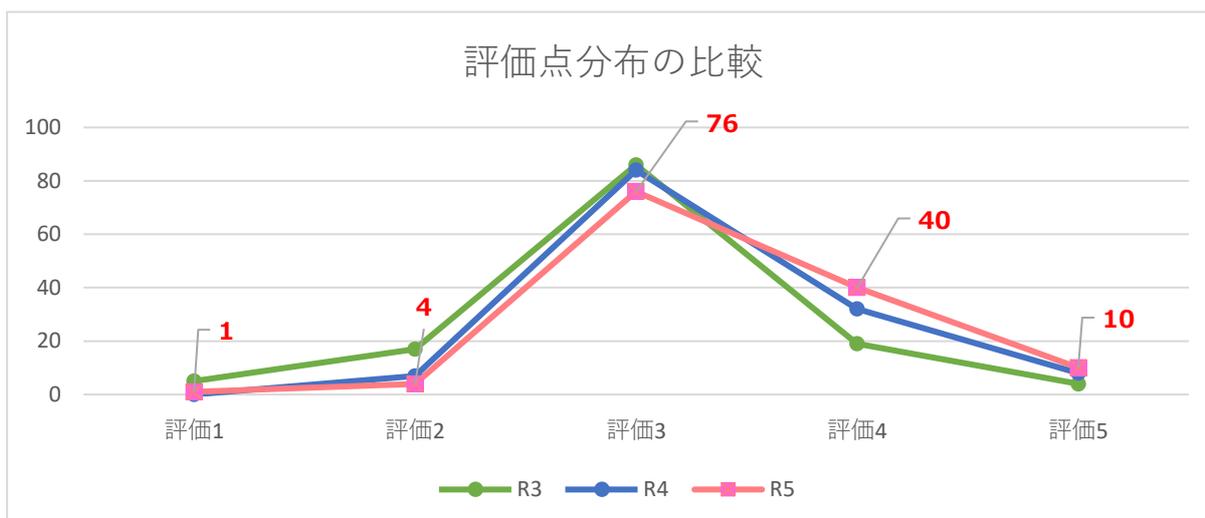
※1【評価区分】(再掲)

5：大きく進展している。 4：順調である。 3：概ね順調である。 2：多少遅れが出ている。 1：大幅に遅れが出ている。

※2【「実りある暮らし」、「充たされたつながり」、「恵まれた生活環境」、「成長の継続」】

第6次基本構想に定める理想の“未来”「充実した日々」を構成する要素として整理したもの。 計画冊子 P9 参照

【2】 令和5年度の評価点の分布



	評価1	評価2	評価3	評価4	評価5	平均評価点
令和3年度	5	17	86	19	4	3.0
令和4年度	0	7	84	32	8	3.3
令和5年度	1	4	76	40	10	3.4
増減 (R4→R5)	+1	△3	△8	+8	+2	+0.1

- ・評価点分布は前年度より改善した。(全体平均評価点 昨年度 3.3⇒今年度 3.4)
- ・新型コロナウイルス感染症の5類移行により、コロナ前に近い規模・回数での事業展開が可能となったことから、KSF（主にアウトプット）などの数値が向上したものが多く、全体の評価が改善した。

【評価が高かった分野】

- ・分野別平均評価点が4.0以上となったものが5分野（分野2 子ども・若者支援、分野4 地域福祉、分野8 スポーツ、分野28 シティプロモーション、分野29 危機管理）となった。

○評価が高かった分野の進捗理由（上位2分野）

・分野8 スポーツ

車いすハンドボールやボッチャ等、障がい者スポーツに触れる機会の増加や、一流スポーツ選手を招いたレスリングやハンドボール教室を開催するなど、コロナ以前に比べて事業内容を充実することができたため

・分野29 危機管理

防災リーダーの養成が進んだことや、防災備蓄に関する意識啓発の機会の増加、富士見市総合防災訓練の実施など、自助・共助・公助の観点が全体的に進捗したため

【評価が低かった分野】

- ・全体としては、分野別平均評価点が3.0を下回ったものが2分野（分野17 道路、分野20 下水道）となっている。また、この2分野については、3年連続で分野別平均評価点が3.0を下回っている状況である。

○評価が低かったものの遅延理由

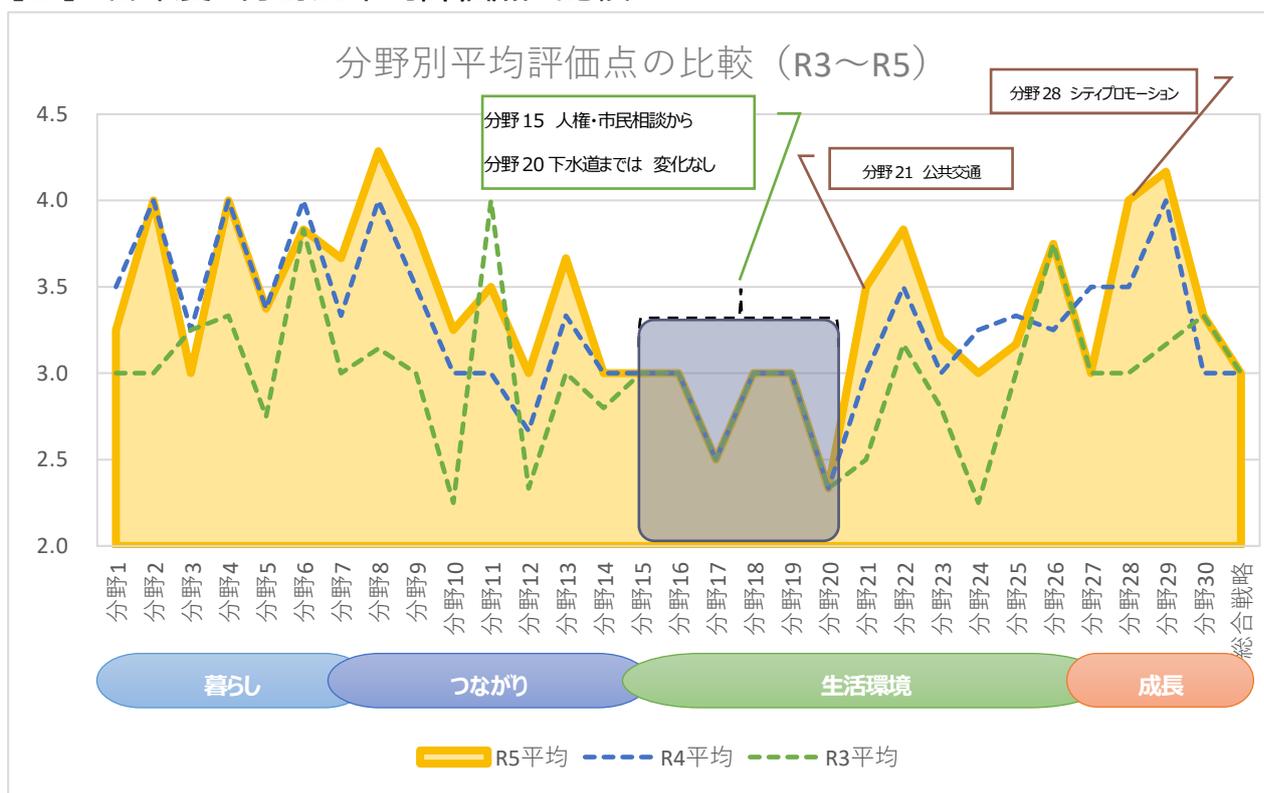
・分野17 道路

幹線道路の整備について、継続して地権者との交渉が進められているものの、市道の整備が完了した実績がなかったため。

・分野20 下水道

公共下水の普及に向けた管渠整備について、既存の雨水ポンプ吐出量の増強の効果及び新たな雨水ポンプ場整備等を踏まえた検討を行う必要があることから、整備が進捗していないため。

【3】各年度の分野別平均評価点の比較



○このグラフのねらい

- ・分野ごとに、R3～5各年度の評価点を比較分析する

○比較結果

- ・一部で昨年度を下回る分野（分野1 子ども・子育て支援、分野3 学校教育、分野6 障がい福祉、分野24 住環境、分野25 商工、分野27 就労）はあるものの、全体の45%にあたる14分野は、昨年度より結果が向上し、残りの11分野は維持となった。
- ・分野15 市民相談・消費生活から分野20 下水道までは3年間の評価に動きがなかった。
- ・全体的に「つながり」・「成長」分野において、改善傾向が強く、「暮らし」・「生活環境」分野においては昨年同様の結果となっている。

○昨年度より大きく評価点が上がった分野 ※昨年度より0.5以上改善

○昨年度より大きく評価点が上がった分野の理由

・分野21 公共交通

駐車場施設の充実について、鉄道事業者との協議を行い、鶴瀬駅東口土地区画整理地内に自転車駐車場の新設について協力を得られたため。

・分野28 シティプロモーション

インナープロモーションの推進について、「ポスター・チラシ作成のガイドライン」を作成するなど、効果的な情報発信に向けた下地が整い、「市に愛着を持っている人」の割合が上昇するなどのアウトカムが得られたため。

分野 No	分野名	R5 分野別平均評価点	R4 分野別平均評価点	差
分野21	公共交通	3.5	3.0	0.5
分野28	シティプロモーション	4.0	3.5	0.5

【4】 前回の審議会で審議した課題への対応

- 令和4年度行政評価で得られた3つの課題に対し、前回の審議会で審議いただいた内容について、令和5年5月に各課にフィードバックを実施。
- その後の取組み状況についてフォローアップした結果、下記のような成果が得られた。

【課題1】 市の取組や情報配信媒体についての認知度が高まらない

取り組んだこと	成果
1 子育て応援モバイルサイト「スマイルなび」	
▶令和5年4月より、母子手帳アプリ『富士見すくすくナビ』にリニューアル	○登録者数（既存ユーザーの移行含む） 1,266名が登録（R5.12末時点）
2 市民人材バンク	
▶推進員の会と協働でモデル事業を実施（忍者体験教室・ボードゲーム体験教室など） ▶推進員によるフェイスブック等での周知活動	○依頼件数の増加 R4：138件 →R5：211件（R6.3.1現在）
3 農業者向け補助金	
▶広報・ホームページによる周知のほか、認定農業者や農家組合長あて、JAいるま野等農業関係団体あてに周知活動を実施	○予算執行率の向上 認定農業者等チャレンジ支援事業補助金 98% 農業用機械購入支援事業補助金 99% など
4 防災ガイドブック	
▶配布や周知の強化 各種防災講座や総合防災訓練での配布を実施	○防災ガイドブック認知率の向上 R5：92.8%
5 その他 市ホームページ	
▶リニューアルに伴う、AIチャットボット機能、SNSによるプッシュ通知機能の搭載	※R6.1.25リニューアルのため効果は今後検証

【課題2】 市内で活動している団体や会員の担い手不足

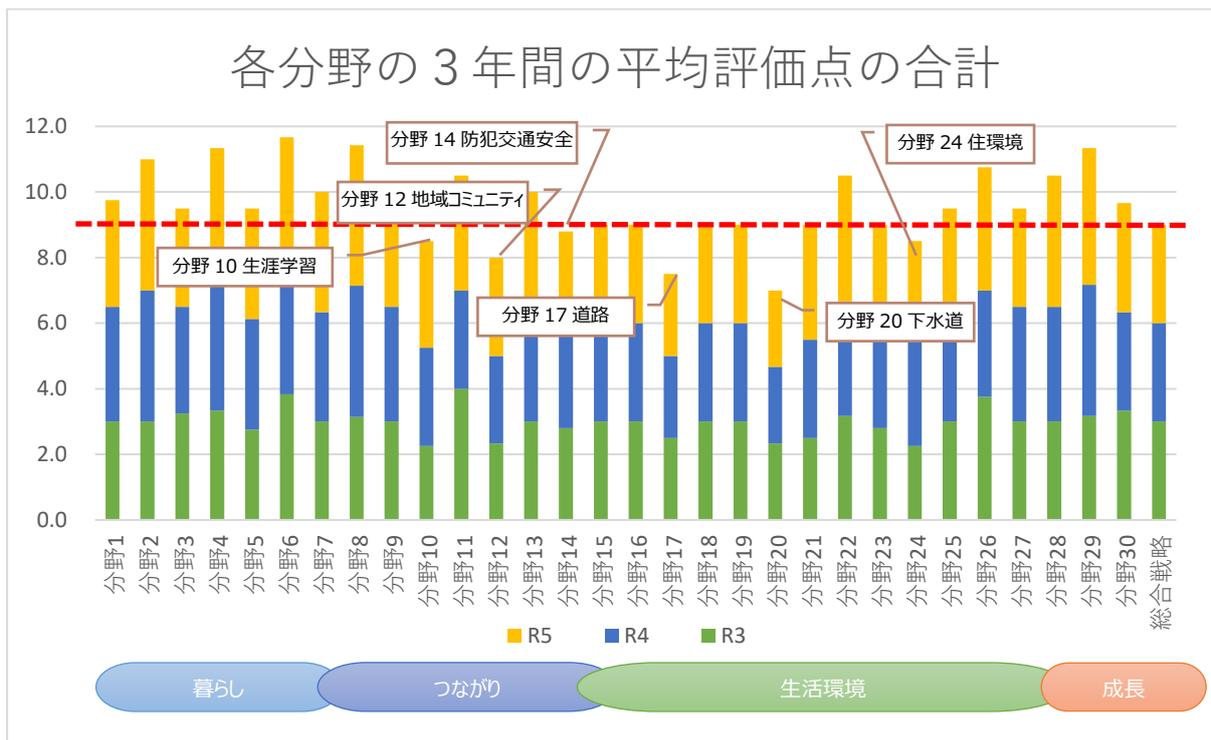
取り組んだこと	成果
1 ファミリーサポートセンター会員の確保	
▶基礎講座の開催（R5.6.7）	○提供会員登録実績の増加 R4：44人 → R5：51人
2 食生活改善推進員の会員獲得	
▶ヘルスマイト養成講座の実施（9～12月 計6回）	○新規会員の獲得 R5：13人

【課題3】 市の事業に対する参加率（利用率）が高まらない

取り組んだこと	成果
1 英検補助	
▶対象の拡充 小6・中3のみ → 中1・2年生を追加 ▶周知の工夫 学校掲示用ポスター、都市宣言塔電光掲示板	○申請者数の増加（小・中合算） R4：44件（R5.1.6時点） R5：182件（R5.12.28時点）
2 ポツチャ体験教室	
▶WEB申込みの導入	○利便性の向上 WEB申込み利用率 92.3%（84件/91件）

4 令和3～5年度の評価（複数年評価）

【1】分野ごとの3年間の進捗



○このグラフのねらい

・分野ごとに、R3～R5の3年間で、どの分野でどれだけ進捗しているかを分析

※ 3年間の合計評価点が赤いラインの9.0(平均3.0×3年間)を超えていた場合、おおむね順調に進捗していると捉えることができる。

○分析結果

・3年間の合計が9.0を下回ったのは、6分野（分野10 生涯学習、分野12 地域コミュニティ、分野14 防犯・交通安全、分野17 道路、分野20 下水道、分野24 住環境）となり、前年度と比較して2分野（分野21 公共交通、分野23 公園・緑）が減少した。

・「暮らし」、「成長」分野では進捗しているものの、「つながり」、「生活環境」分野において遅れが生じている傾向となる。

参考：3年間の合計が9点に届いていない分野

分野 No	分野名	R5 分野別 平均評価点	R4 分野別 平均評価点	R3 分野別 平均評価点	合計
分野 10	生涯学習	3.3	3.0	2.3	8.5
分野 12	地域コミュニティ	3.0	2.7	2.3	8.0
分野 14	防犯・交通安全	3.0	3.0	2.8	8.8
分野 17	道路	2.5	2.5	2.5	7.5
分野 20	下水道	2.3	2.3	2.3	7.0
分野 24	住環境	3.0	3.3	2.3	8.5

【2】【1】での分析及び所管課における中間評価を踏まえて

令和5年度で第1期基本計画の折り返し地点を経過したことから、この間の効果を把握することを目的として、行政評価シート内に令和3～5年度の効果（アウトカム）欄を追加し、各課において中間評価を実施した。

第1期基本計画期間内においては、この間、新型コロナウイルス感染症による多くの影響を受けた。想定どおりに事業が進捗しない状況や、既存手法からの変化が求められる中、各施策において、以下のような3つの傾向があることがわかった。

■新型コロナウイルス感染症拡大を起因とする3つの傾向

- (1) 事業の縮小や中止 → 5類移行に伴う「**事業の再開**」
- (2) 行動や活動の制限 → 「**つながりの回復、連携の強化**」
- (3) 感染症対策 → 「**新たな生活様式・DX化への対応**」

また、これらの傾向分類に基づき、事務局における【1】での分析結果と所管課における中間評価を踏まえ、全体分析を行ったところ、以下のような状況が明らかとなった。

○全体分析の結果により明らかとなった状況

(1) 事業の再開（17/30分野で記載）

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、事業の縮小や中止が相次ぐ中、これまで実施方法を工夫しながら対応してきた。また、5類移行後においては、131施策のうち、事業の再開等によりコロナ以前の水準までKPIが回復している施策が56施策あり、基本構想に定める“理想”の未来の実現に向け、再び歩みを進めていることができていると考えられる。一方で、指標の最新値が計画策定時点の現状値を下回っている施策も29施策あり、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が解消されていない施策があることがわかった。

（残りの46施策は、KPIの計画策定時点の現状値や、計画策定以後の数値が取得できていない施策等）

なお、KPIの進捗状況により、以下のような要因があるものと考えられる。

KPIの状態	要因
コロナ以前の水準までKPIが回復している	<ul style="list-style-type: none">・的確な施策の展開ができている・コロナの影響を（あまり）受けなかった・コロナ前と同様のニーズがあると考えられる・社会情勢の変化によりニーズが増加した など
最新値が計画策定時点の現状値を下回っている	<ul style="list-style-type: none">・施策の展開が充分でない・施策は展開できているが効果が得られていない・コロナの影響がまだ残っている・コロナの感染拡大を機にニーズが減少した など

(2) つながりの回復、連携の強化 (23/30 分野で記載)

コロナ禍における活動の制限がある中でも、事業の更なる推進のため、関係機関との連携を深めるとともに、新たな大学・企業とつながることで、外部の資源や知見の活用を進める体制が構築できた。

新たなつながり	N T T、日本薬科大学、跡見学園女子大学との包括協定、 (株)ロッテや民間救急事業者との個別協定 S D G s ワークショップにおける新たなステークホルダーの参画 など
連携の継続・強化	新たな自主防災組織の結成、セルビア共和国との姉妹都市交流の継続、 パルカフェとの連携によるフレイル予防事業の実施、 障がいをもつ当事者の方々のあいサポートフェスティバル等への参加 など

(3) 新たな生活様式や DX 化への対応 (14/30 分野で記載)

新たな生活様式への対応や、ポストコロナに向けた体制の整備、D X の推進に対し、様々な分野において、それぞれの事業に合った形で対応を模索し、実施した。

新たな取組	がん検診 W E B 予約システムの導入、電子図書館の導入、 公民館および交流センターへの Wi-Fi の設置 など
既存の取組における手法の見直し	生涯学習講座参加申し込みの電子化（応募フォームによる申し込み）、 就職支援セミナーのオンライン開催、職員採用試験の WEB 面接の実施、 市民相談及び女性相談におけるオンライン相談、 食育教室や郷土伝統芸能の映像配信 など

5 令和6年度の方向性

○今後の基本計画の推進に向けて

分析の結果、全体として行政評価結果（行政活動の成果）は向上しているものの、十分なアウトカムが得られていない・把握できていない施策もあり、あらためてニーズ、ロジック、指標等について検証を行い、第1期基本計画終了までに適切な効果を計測していくことが必要である。

第1期基本計画の残りの2年間（R6～7）においては、当該検証の結果をもとに最終的に十分な効果を得られるよう、現在の行政評価のスキームを活用しながら、修正点を明確にし、軌道修正を加えることで適切な事業実施につなげていく。

また、今回の検証の結果を、第2期基本計画におけるロジックモデルや指標の形成（見直し）に活用し、令和8年度に向けて策定を進めるものとする。

なお、第2期基本計画においては、庁舎建設など多額の事業費を要する事業が予定されていることから、不要な事業や役目を終えた事業等については、積極的にスクラップを行い、財源や人的資源の効率的・効果的な活用をさらに進めていくことが不可欠である。このため、当該スクラップの観点も重要な視点として取り入れ、第2期基本計画の策定を進めていくものとする。

<施策等の見直し・スクラップのイメージ>

